

山行報告書

報告書作成

2013年4月1日

山名 [山域]	乗鞍岳 [北アルプス]	目的と方法	残雪期のバックカントリースキー
登山期間	2013/3/31(土)	山行形態	日帰り
参加人数	2人		

行動記録 【晴】

3月30日(土)

自宅(4:20)発==19号線経由==(7:40)着 乗鞍高原スキー場 リフト下(9:00)==(9:30)リフト最上部1985m(9:40)==ツアーコース==(10:30)2300m地点(10:40)==(11:20)2500m地点(11:30)==(12:20)摩利支天手前稜線コブ(2800m) 滑降準備 ドロップイン(13:10)==(13:20)位ヶ原山荘(13:45)==(14:30)鳥居尾根リフト最上部==(14:40)駐車場



日誌

- ・8:30に乗鞍高原スキー場に集合し、9:00出発。閑散とした静かなスキー場。リフト最上部に登るとたくさんのパーティが登山の準備を始めていた。この時期は、一般人よりバックカントリー組の方が多く感じました。
- ・リフト最上部からは、ツアーコースとしてゲレンデのような広いルートが切り開かれている。安心して、登ることが可能。
- ・2300m地点で槍穂の景色が広がる。
- ・2500m地点では、乗鞍の全景が見渡せる。たくさんのパーティ(約50名)が肩ノ小屋に向かって登っていた。ここから、斜度があり、人の少ない、右側の摩利支天側の雪面を目指す。
- ・摩利支天手前の小ピーク(2800m)で登行終了。このルートは4パーティ10名ほど。ピークは時折強風にみまわれるが、乗鞍としては穏やかであった。
- ・滑り出しは急。30° くらい。ウインドクラストとアイスバーンと、柔らかい吹き溜まりのミックスした斜面を滑る。
- ・途中から、位ヶ原山荘めがけて、北東に滑りだすと、柔らかめの雪面があり、シュプールを刻むことができた。山荘まで気持ちの良いオープンバーン。
- ・山荘から下は、車道のシュートカットを使ったツリーランルート。その後、車道をはなれ、夏道沿いの尾根をつたって、鳥居尾根ゲレンデにでて、バックカントリー終了。

感想

- ・約20年前の6月、山頂直下から滑ったことがあり、今回が2回目のスキー。
- ・乗鞍岳はこの時期のバックカントリーのメッカ。人が多くて、味気ないと予想していた。しかし、行ってみて、見直した。多くのスキーヤーやボーダーと抜きつ抜かれつしながら、安全に登れる。デブリや雪庇もほとんど見当たらなかった。雪崩リスクも少ない。そのうえで、すこしルートをずらせば、人も少なく、広いオープンバーンを滑れる。途中に有人の営業小屋もある。ツリーランやGPSを使ったルート探索も楽しめる。人気がある理由が分かった。
- ・摩利支天と富士見岳鞍部から位ヶ原小屋の谷筋は、適度な斜度で広くて長いオープンバーン。次回はここを目指す。